



福聚

題字 總持寺貫首 石附周行猗下

発行・編集

曹洞宗 観音寺

〒956-0862 新潟市秋葉区新町2-5-51

電話0250-22-1384 FAX0250-22-2099

住職携帯090-3093-4112

<https://sotoshu-kannonji.com/>

観音寺 秋葉区 検索



報恩のお勤め

観音寺住職 阿部正機

少し長文になるかもしれませんが：前回号にてお伝えしました通り、令和六年は大本山總持寺御開山太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌の年であり、また観音寺十九世重興大果正栄大和尚（阿部正榮方丈様）五〇回忌の年でありました。

先ずもって、十月三日先住五〇回忌法要におきましては、お蔭を持ちまして無事円成いたす事が出来ました。これも偏に仏天のご加護と皆さまのご慈愛の賜物と、心より感謝申し上げます。お逮夜導師に加茂市大昌寺さまに、ご正当導師にご本寺正法寺さまに、それぞれ慇懃にお勤めいただきました。

また先住忌法要に先立ち、檀信徒授戒会（生前戒名授与式）を修行、二十四名が戒法を受け、お戒名を授かり、仏の御子とられました。お釈迦さまは仏教徒としての生き方を教えられ、それを戒法といいます。曹洞宗では最も基本的な十六カ条の教えを授け、それを守り続けることを誓う、そのような仏弟子となる大切な式をお授戒といいます。そのお授戒を行じることでお戒名が授かります。

ます。お戒名は、ボチボチ年を重ねたからとか、亡くなったからという受け方は本来でありません。これからの人生を仏教徒としての誇りと自信と責任を持ってより良い生き方をするためにお受けするのです。ということは、本来お戒名は生きていくものにいたでるうちにいただくものですね。

これからも折に触れて檀信徒授戒会（生前戒名授与式）を修行することが、昭和四十六年報恩大授戒会を厳修された先住さまの誓願に応えるものと信じ、継承してまいります。



先住忌より十日後の十月十三日、太祖瑩山禪師七〇〇回大遠忌焼香師の命を拝し、大遠忌慶讃法要にて、五十四名の随喜和尚さま、随行団員さまの同行同修をいただき、太祖さまのご真前に報恩一炷の心香を献じてまいりました。まさに多くの

ご縁とお支えをいただく中で修行出来ましたことは、この上なき喜びでありました。

大遠忌焼香師のお声かけをいただいた際には、凡俗な僧侶ゆえに固辞させていただきましたが、再びご連絡をいただき、この年は師父の五〇回忌の年でもあり、尊いご法縁の深さを感じ、師父へのご供養ともなるのではない、謹んでお請けさせていただきました。

太祖さま六五〇回大遠忌（昭和四十九年）の翌年十月に師父は遷化いたしました。師父は太祖さまのご誓願をどのように受け止め、何を自らの報恩行としたのか。推し量ることは出来ませんが、師父の想いも重ね合わせてお勤めさせていただき、尊い出会いと経験、思い出を結ばせていただきました。

奇しくも私がお護りさせていただいているお寺は「観音寺」。お観音さまのご本願は大慈悲にあり、太祖さまのご誓願もまた大慈悲にあります。相承されてきた大いなる足音の一つ「大慈悲」を後世に繋いでいくことを深く心に刻み、宗教感の変容、継承者不在、仏事簡略など、お寺と僧侶の存在そのものにも危機感を抱く今、太祖さまのみ教えを抛り所とし、実践していく事で、自らの報恩のお勤めとしてまいります。

この度のすべてのご縁に感謝不尽。

合掌



總持寺大祖堂にて石附禅師様を囲んで（令和 6 年 10 月 13 日）

観音寺十九世五〇回忌法要



授戒会(洒水式)



授戒会(垂示)



先住50回忌逮夜(大昌寺さま)



先住50回忌(正法寺さま)



参列者



焼香

太祖瑩山紹瑾禅師 七〇〇回大遠忌焼香師慶讃法要



禅師様と相見



密湯を献ずる



荘厳



僧侶の行道



焼香



丁寧に勤める

第三回 もみじ茶会

観音寺檀徒 武 田 淑 子

観音寺様の御好意で毎年十月第一日曜日をもみじ茶会の為に確保して下さり、新津地区表千家教授者会の地区の先生方で回り順でもみじ茶会を開催しております。

前日の準備のうちに奥様がなんでも云ってくださいますとありがた言葉をかけていただき感謝。

当日十月六日(日曜日)はまさにお茶会日とで皆さんの足元も軽やかでした。本堂より入り受付後は左右に分かれ、第一席、立礼席で薄茶席、席主、中野裕昭先生。朱傘に短冊「清秋竹露深」立花大亀老師。先生のお宅は山野草の宝庫で新鮮なお花が生けられました。

順番で私が和室で濃茶席を立礼で持たせていただきました。社中は初めての濃茶席で少々緊張。掛物は門柱に書かれている文と同じものが、床の間掛けてありましたので、失礼を省みずに御住職様にお願ひ致しましたら心よく即答くださいました。掛物は「慈眼視衆生」。「福聚海無量」掛物の



道場にてのお茶席

読み方、解釈を伺ったのですが、覚えたつもりが、いざ席が始まりましたら最後まで読めず解釈が出来ず、門柱と同じでございまして一席ごとに詫びておりました(苦笑)。花は浜ぎく。茶入は私の喜寿に社中の皆さんから頂いた茶入を使用。茶碗は主人との思い出の萩茶碗で濃茶を点てお正客様にいただきました。コロナが昨年五月に第五類になりましたが含み廻しはせずに各服で差し上げ楽しんでいただきました。茶碗をさげると、のみ口を消毒紙で拭き、お運びの人の指も消毒になり、水屋の係はもう一度消毒、洗い湯を通し手間をおしまず一生懸命に奮闘してくれました。お客様が帰りに受付の方に両席のお菓子とお茶がおいしかったですと笑顔で伝えてくださったとのこと、うれしかったです。

私はよくお茶会に出かけましたので、出かける時はなるべく元気よく「行つて来ます」と。帰りは玄関を開けると、「ただいまー。ありがとね」と云って入りました。主人は私が大きな声で云うものだから、「お帰り、楽しかったかね。」と云ってくれるので、私は「もちろん。」と答え、にやにやしていました。

お茶を続けていられることに皆さんに感謝。



武田先生のお宅に月参りでお伺いすると、お抹茶を点てていただき一服頂戴し、心身を癒していただきます。また、「もみじ茶会」のお席に入らせていただくと、武田先生のお話とお点前は勿論、静かにして流れるようなお作法に感銘を受け、禅寺とお茶の深い繋がりをあらためて感じます。ご執筆有難うございました。

住職合掌

太祖瑩山紹瑾禅師七〇〇回 大遠忌焼香師慶讃法要参拝に参加して

観音寺檀徒 阿部 高広 友美

大本山總持寺の参拝の旅から早いもので半年が過ぎました。日頃私は、観光バスのドライバーをしており、ご住職より参拝の旅のドライバーとしてどうですか？とお話を頂いたのですが、昨年元旦に母を亡くした事もあり、妻と相談し、ゆつくりと参拝させて頂く事にしました。總持寺は仕事では訪れておりましたが、お寺の参拝は今回が初めてでした。

参拝の際、輪絡子を首から下げ、お寺に入ると普段感じる事の無い身の引締まる思いでした。法要が始まり、焼香師様としてのご住職、そして副住職、各寺院様方のお姿が荘厳で圧巻でした。以前は仏教に関して疎い私はご先祖様を疎かにしてしまっていた部分がありましたが、今回の参拝と妻のお陰で改めて私もその気持ちを持つ事が出来ました。これからは、ご先祖様を大事に過ごせたらと思っています。

又、この旅は色々な方に出会え、私にとって楽しい旅となりました。東京の夜景を見ながらの屋形船で



禅師さまと親しくお会いする



ご本山参拝にご夫婦で参加いただきました。お若いお二人ですが、道中参加者への優しい気配りが随所に見られ、心温まるお参りの旅ができました。今年四月の福島ころり三観音の旅にも参加いただき、ご縁を深めました。これからもお参りを重ねてまいりましょう。ご執筆有難うございました。住職合掌



大祖堂にて参拝(後列手前のお二人)



總持寺受処にて

の宴会や、高尾山薬王院の御祈禱の迫力等、貴重な体験をさせて頂きました。帰りの車中の、お楽しみジャンケンゲーム大会も、子供に戻ったようで楽しかったです。今回の旅行で、たくさんのご縁を頂き、「太祖瑩山紹瑾禅師七〇〇回大遠忌慶讃法要」参拝と、ご住職の焼香師様としてのとても貴重な年に、私達も参加させて頂きとても感謝しております。

又、機会がありましたら、是非参加させて頂き下さい。

◆ 令和 7 年行事案内 ◆

一月一日～三日

三朝祈禱

【午前六時 読経・祈禱】

一月一日～二日

初詣・年始受け(檀信徒から寺へ)

一月三日～十日

年始廻り(寺から檀信徒へ)

二月三日

節分会(祈禱)

三月十五日

【午後七時 ご祈禱・福豆配布】
涅槃会(だんごまき)・血脈授与式

三月十七日～二十三日

【午前十時半 法要・涅槃だんご配布】

五月八日

花まつり

【午前十一時 法要】

六月二十一日

万灯(塔婆)供養

【午後七時 法要】

八月三日

盆仏

【午前十時半 法要】

八月十日

千日詣り

【午前十時半 法要】

八月十一日

盆棚経(旧新潟市方面)

八月十二日

盆棚経(市外・荻川地区)

八月十三日

盆墓参・盆受け

八月十四日～十六日

盆棚経(秋葉区全域)



九月十三日

開山忌

九月二十日～二十六日 秋彼岸(棚経希望の方はお電話下さい)

十月三日

施無畏会

十二月八日

成道会・常齋米供養

十二月三十一日

【午前十一時 法要】
除夜の鐘・二年参り

【午後十二時四十五分撞き初め】



* 定例の各法要行事にどうぞお参りください。

* 行事の時間・内容等は、当日一週間前よりお寺の
掲示板にご案内いたします。

★ 梅花講練習日

毎月第一か第二月曜日 午前十時より
初心の方でもどなたでもお気軽にどうぞ。

★ 明心会(坐禅会)

毎月第三日曜日 午前六時より
「坐禅(法話)・茶話会」
どなたでもお気軽にどうぞ。

★ 同行二人会(観音巡拝旅の会)

昭和四十六年より毎年観音巡拝の旅を行なっています。
本年は四月二十二日～二十三日(一泊二日)で会津ころ
り三観音の巡拝を実施いたしました。
来年はまだ未定ですが、参拝の旅を企画いたします。秋
頃にはチラシを本堂に置きますので、どなたでも気軽に
ご参加ください。



令和七年『お盆の棚経』

住職・副住職・役僧

八月十一日 旧新潟市

十二日 旧新潟市、亀田、五泉、荻川地区

十三日 墓参・盆礼受け

住 職

八月十四日

午前…金沢町 4

午後…金沢町 3・2・1

十五日

午前…新町 2

午後…新町 1・3

十六日

午前…程島、中村、東島、朝日、古津、他

副住職

八月十四日

午前…大鹿、吉岡町

十五日

午後…柄目木、飯柳、田家、中沢

午後…秋葉、新金沢、東町

午後…北上、さつき野、川口

役 僧

八月十四日

午前…草水、滝谷

十五日

午後…美幸町、下興野

午前…新栄町、日宝町

午後…善道

役 僧

八月十四日

午後…山谷、古田

十五日

午後…本町 4・3・2・1

＊あくまでも現在の予定です。

多少の変更も有りますので、八月十三日の墓参の時に最終調整した日程表を、本堂に大きく掲示しますのでご確認ください。

＊各地域の担当和尚さんを毎年ローテーション致します。時間帯はだいたいの目安です。前後することもありますので、ご了承ください。

『磨磚道場』イベント案内について

寺子屋の性格をもつ「磨磚道場」ゆえに、ともに学び、ともに自らを磨き、ともに自らの尊さに気付く、そのようなイベントを皆様にご案内してまいります。

イベント案内は当面はお寺の掲示板（なるべく早めに掲示する）とチラシ案内（お寺に置く。）となります。

【現在までの企画イベント】

☆寺子屋かんのん塾（小・中学生対象）

………通 年

☆定例「坐禅会」

………毎月第三日曜日 午前六時

☆定例「梅花（ご詠歌）の会」

………毎月いずれかの月曜日 午前十時

☆寺力フェ

………四・五・六・九・十・十一月、概ね午後開催（住職法話などあり）

会費 五百円

☆寺ヨガ

………四・五・六・九・十・十一月、概ね午後開催

会費 五百円

☆様々コンサートなど

※どなた様もお気軽にお問い合わせてください、ご参加お待ち申し上げます。

お寺よりの伝言板

「磨磚(ません)道場使用について」

磨磚(ません)道場は様々な使い方ができる檀信徒皆様の空間です。何かご希望等がありましたら気軽ににご相談下さい。

「墓地の美化にご協力を！」

燃えないゴミはなるべく各自でお持ち帰りいただきます様お願いいたします。

また燃えるゴミは、ゴミボックスをお使い下さい。環境保全、墓地の美化にご協力をお願いいたします。

「自然災害復興支援・北朝鮮による拉致解決へ向けた支援を呼びかけてあります。」

本堂に支援箱を置いておりますので、寄り添いの心をもって、出来る活動をみんなで行っていきましょう。

住職の携帯電話の番号

090-3093-4112



*緊急の時など右の携帯電話の番号におかけ下さい。

おしょう 和笑のひとり言

十九世五〇回忌法要記念に何か形あるものを残したいと思い、右に掲載の「マンガお観音さま」を制作しました。檀信徒・有縁の皆様の後世にも語り継いでいただけるよう、分かり易くかつ史実に沿った内容に仕上げました。

原作は「観音寺縁起」。観音寺の由来と観音寺秘仏ご本尊聖観世音菩薩の歴史が書かれており、毎歳八月十日「千日詣り」法要にて、奉読いたします。

「マンガお観音さま」を通して、よりお寺を身近に感じていただき、この一冊がお寺と檀信徒・有縁の皆様との架け橋となり、この一冊に様々な会話が交わされ、新しい歴史が紡がれていくことを、期して待つものでございます。

秘仏ご本尊

マンガ お観音さま

「観音寺縁起」より」

